

カンボジア事務所

■カンボジア事業

●地雷埋設地域村落開発プロジェクト

カムリエン郡オッチョンボック村

本会では、2008年10月より村人が住民組織を設立し、各制度を村人たち自身が運営できるようにサポートしている。1つは、JICA 基金を利用し、住民組織から各メンバー100 家族へ、6 ヶ月間の低利子による小額融資を行うマイクロクレジット(小規模融資)制度を設立し、実施した。残念ながら、この村は、昨年大雨による作物の不作などで、多くの村人が収入を増やすことはできなかったが、融資の返済率は高く、次年度の融資での収入増加が期待される。また、この村の住民組織は、毎月各住民組織メンバーから小額資金を回収し、緊急の出費があった際に適用される健康保険制度や、学校へ行けない子どもたちを支援する奨学制度も開始し、新たに 30 名の子どもが学校へ通えるようになった。スタディツアーの際には、京都文紙事務用品組合様からご寄付いただいた文房具を、村の小学校へ提供した。



学校へ行けるようになった子ども

また、NPO 法人ネットワーク「地球村」様からのご寄付で、耕作用中型トラクター1台と水汲み用ポンプ2台を住民組織へ提供し、住民組織はメンバーへのレンタル制度を設立し、今までお金持ちから借りていた料金よりも安く、貸し出している。レンタル料金は、トラクターやポンプのメンテナンス費としてまかなわれるだけでなく、住民組織はレンタル料金を貯蓄し、メンバーへの支援の資金として還元することもできることも期待している。

加えて NPO 法人ネットワーク「地球村」様からは、ため池 10 基の掘削費もご寄付いただいた。このため池 10 基は、最貧困層がグループを作り、それぞれ魚の養殖プロジェクトを実施している。魚は、この村でも需要があるだけでなく、国境の近いタイへも輸出できるほど市場は広く、貧困層への副収入が期待できる。



ため池での魚の養殖をする村人

その他、本会の農業専門の 2 人のスタッフから、有機栽培や魚の養殖、きのこの栽培方法などのワークショップが最貧困層へ実施された。

バナナ郡ドーン村、チャンホー・スヴァイ村

2006 年より支援しているこの 2 村には、フォローアップ支援として、東京八王子ロータリークラブ様の 50 周年記念事業により、各村の住民組織へトラクター2台と水汲み用ポンプ1台ずつ、合計トラクター4台、水汲み用ポンプ2台を提供した。これにより住民組織は、レンタル制度を設立し、安く農作業をできるように貸し出すことで、住民のメンバーの作物の栽培を助けている。また、2つの村の子どもたちが通う小学校への文房具もご寄付いただいた。



トラクターによる耕作の様子

バヴェル郡サムロンチェイ村

雨季にはアクセスの悪いこの村は、隣村の小学校へ通うことが難しくなることから株式会社

穂高住販様のご寄付で、5教室の小学校を建設し、9月に開校式を開催した。これにより約70名が新たに小学校へ通えるようになり、現在150名の小学生がこの学校で勉強している。またこの学校では、2月に綾部青年教師会様が、スタディツアーでご訪問いただくと同時に、ランドセルと文房具を小学生へ提供いただき、綾部の中学生からのビデオメッセージと、この小学校の小学生から寄せ書きが交換された。また、この村には2基、隣の村に1基の井戸を建設し、水質検査により、飲料にできる水を村人に提供している。



穂高小学校開校式で出迎える村人たち

●地雷撤去支援プロジェクト

2008年8月と2009年3月の2回、スタディツアーを開催した際に、提携する地雷撤去団体MAGへ、地雷撤去活動費として合計4,527ドルを提供した。MAGは、本会が村落開発支援を実施するオッチョンボック村でも、撤去活動を実施しており、この村では2008年7月から2009年3月までに115個以上の地雷を除去した。こうした村の中に地雷原が残り、危険と隣り合わせでの生活を余儀なくされている最貧困層は、まだカンボジアにはたくさん存在している。2008年はカンボジアでの地雷・不発弾被害者は、266人と前年の352人から減少しているものの、撤去のニーズと緊急性は、まだ高い状況が続いている。

●カンボジア義肢装具士育成プロジェクト

カンボジアトラストの運営するカンボジア義肢装具士養成学校の生徒、ヒム・カンニャさんへ、2度のスタディツアーの際に奨学金を提供した。カンニャさんは、2008年10月に最終学年の3年生へと進級しており、2009年9月に卒業予定である。



義肢装具製作の実習をするカンニャさん

■ラオス事業

●不発弾(クラスター爆弾)撤去&中学校建設プロジェクト

シエンクアン県ノンヘット郡カンパニオン村にて、不発弾(クラスター爆弾)撤去をMAGラオスとの提携で実施し、2009年1月に撤去が完了した。幸い撤去場所からは、不発弾は1個も見つからなかったが、これにより安全が確認された。また、撤去後の土地に中学校を建設するプロジェクトを、ラオス赤十字、現地教育省と提携し、実施しており、2008年3月までに50%の建設が完了している。不発弾撤去も中学校建設も、プレマ株式会社様からのご寄付でまかなっている。このプロジェクトは、ベトナム戦争中に米軍によって落とされたクラスター爆弾の不発弾が今でも撤去されずに、ラオスの人々を傷つけていること、またその影響により開発が遅れていることから、不発弾撤去で安全を確保するとともに、撤去後の土地に中学校建設をするプロジェクトを統合することで、より大きなインパクトをあげることができると考えている。



建設中の中学校の様子

●不発弾(クラスター爆弾)被害調査

シエンクアン県を中心にラオスでの不発弾(クラスター爆弾)の被害調査を2008年12月、2009年1月の2回実施している。シエンクアン県では、不発弾撤去団体であるUXO-LAOやMAGラオス、義肢装具を不発弾被害者へ提供するCOPEなどのスタッフから聞き取りを行った。

ウガンダ事務所

■ウガンダ事業

ウガンダ事務所は昨年度に引き続き、日本人駐在員を派遣し、ウガンダ北部地域にて1つのプロジェクト、カンパラ市にて1つのプロジェクト、1度のウガンダ視察・スタディーツアーを実施した。

1.1 ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト(対象地域:グル県)

元子ども兵 91 名(1 期生 15 名/2 期生 23 名/3 期生 38 名/4 期生 15 名)及び、貧困層住民 83 名(小規模ビジネスコース 38 名/職業訓練コース 45 名)の合計 174 名を対象とした支援活動を行った。

同プロジェクトにおいては、協力団体の GUSCO(グスコ)でリハビリを受け、施設を出てコミュニティに帰還した元子ども兵を主要な対象に、3年以内に自立することを目標に、4つの活動【職業訓練や小規模ビジネスの指導、心理社会支援、ベーシックヒューマンニーズ支援活動、マイクロクレジット(小規模融資)の支給】を包括的に行った。同時に、元子ども兵の近隣に住む貧困層の住民を小規模ビジネス、職業訓練などのクラスに受け入れ、元子ども兵と近隣住民の和解、信頼構築を進めることを目指した。

特に上述の目標を達成するために、プロジェクトの後半期に入っている1期生、2期生に対しては、小規模ビジネスの指導、マイクロクレジット(小規模融資)の支給などの収入向上支援を中心に実施し、3期生、4期生に対してはベーシックヒューマンニーズ支援と能力向上支援活動を中心に行なった。

① BHN(ベーシックヒューマンニーズ)支援活動

生活を安定させる為に訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて毎月の食費と医療費をクーポンチケットで配布した。そのクーポン券は受益者各自の近くの食料品店、診療所でのみ使えるよう、当会と契約し、村の診療所で治療が困難な場合は、ラチョー病院(北部地域最大の病院)に搬送し、治療や診療を行った。また、受益者の家族の状況に応じて家賃や、生活必需品の支給及び受益者の子ども(小学生)の学費の支援もあわせて行った。なお訓練期間中は毎日給食を施設内で調理し、提供した。



グル市内の当会と契約している診療所にて。4期生の元少年兵と診療所の看護師。

② 能力向上支援活動

受益者が収入向上活動を始めるのに必要な職業技術、識字などの能力を向上するための基礎教育などを行った。職業訓練では、洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の4科目を開講し、基礎教育の授業で識字、算数、英語の授業を行った。また、幼児を持つ元少女



基礎教育の様子。
識字教育、算数、英語の授業を行っている。

兵たちが育児に関しての基礎的な知識を習得する為に、公衆衛生、母子健康保健に関するクラスを週1回開講した。既に収入向上活動を始めた1期生、2期生に対してはパートタイムで、必要に応じてこれらの教育・訓練を行った。

③ 心理社会支援活動（ルーツ&シューズ活動）

各受益者個別に悩みや、トラウマやその程度も様々であることから、個別カウンセリングとグループでのクラス（ルーツ&シューズ活動：音楽や伝統ダンス、自作ドラマの創作）などを通じた、心理社会サポートを行った。同時にアチョリ民族の伝統的な和解メカニズムやことわざを基にした平和教育も行い、これらのグループでのクラスでは元子ども兵に加え、貧困層住民の受益者も受け入れて混合で行なった。また、毎週土曜日、元少女兵の子ども（6歳～14歳）と、その近隣住民の子どもに対しても伝統ダンスや歌、ドラマの授業を開講した。

④ 収入向上(マイクロクレジット)支援活動

3期生と4期生を対象にした小規模ビジネスクラスを週1回開講し、貯蓄の重要性、ビジネスの基礎的な知識、マイクロクレジットを使って収入向上活動していくために必要な事項の訓練を行い、3期生にはクラス修了後に第1回目のマイクロクレジットを支給した。また、1期生と2期生には、継続して小規模ビジネスの個別指導を行うとともに、昨年度支給したマイクロクレジット返済後に、新たにマイクロクレジットを支給した。また、マイクロクレジットを受け取った受益者たち（1期生～3期生）は収入向上活動をそれぞれ行いながら、パートタイムで職業訓練科目や基礎教育科目等を履修し、更なる職業技術、基礎教育能力の向上に励んでいる。さらに定期的に各自のビジネスの状況を他の受益者たちと共有し、講師からの助言やアドバイスを受けながら自立に向けて励んでいる。



マイクロクレジットを使って最初のお客さんへの商品(服)を作った2期生

1.2 不法小型武器問題啓発プロジェクト(対象地域:カンパラ市)

ウガンダ国内で、不法小型武器問題の啓発活動に取り組むNGOのネットワーク組織である、UANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)との定期的な情報交換を行い、各種会合へ参加した。また、これらの会合の中で、小型武器の被害を止めるためにはウガンダ国内だけでなく、小型武器の流入が頻繁に行なわれている近隣諸国を含めた、「アフリカの角・大湖地域(東アフリカ地域)」に広がる市民社会の協力・ネットワークを強化することが重要との認識から、同地域の市民社会のネットワークである(EAANSA:東アフリカ小型武器行動ネットワーク)が、啓発活動を行う上で必要となるパンフレットなどの資料作成を開始した。



クラスター爆弾禁止条約カンパラ会議にて、会議に参加していた市民社会(NGO)間の会合の様子

1.3 視察・スタディーツアー

今年度は1度の視察・スタディーツアーを実施し、当会へのご支援を頂いているネットヨタ南国の社員の方など計 4 名の方々が視察ツアーに参加し、当会の元子ども兵社会復帰センターの視察、受益者との交流などを行った。また、中央大学の国際協力サークルのメンバー、参議院 ODA 視察団のメンバーらを当会施設の視察に受け入れた。



今年度の視察・スタディーツアーに参加し、元子ども兵との交流会に参加したツアー参加者

■コンゴ民主共和国事業



グローブハウスⅢの建設工事が始まったときの様子



屋根工事が始まった時の様子



グローブハウスⅢの骨格が完成

コンゴ民主共和国東部での事業を、南キブ州にて、同州ブカブ市に拠点を置く現地 NGO「GRAM(グラム)」と連携し、実施した。昨年度に引き続き GRAM の組織基盤の強化と活動拠点の整備を行うため、プロジェクト管理の指導、オフィス器具の提供を行った。また、南キブ州カロンゲ区域にて、元子ども兵及び紛争被害者を支援するための施設(グローブハウスⅢ)を、(株)アイケイ様のグローブ基金よりご支援を頂き建設を開始した。(2009年5月完成予定)



グローブハウスⅢの建設状況のモニタリングに訪れた当会理事長(右)とグローブハウス建設地域の伝統リーダー(右から2番目)

日本事務所

1. 啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題(地雷、小型武器、子ども兵)について、講演やイベントの実施などを通して、啓発活動に積極的に取り組んだ。

●講演

理事長による講演を各地で実施。企業での講演が増加した。主なテーマは、「地雷畑で見た夢(地雷)」、「ぼくは13歳 職業、兵士(子ども兵)」、「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した(社会起業)」

●主催イベント

理事長著書出版記念講演会ほか、計8回実施した。延べ 550 名が参加。

- 05月11日(日) 出版記念講演会(京都府京都市)
- 05月31日(土) 出版記念講演会(愛知県名古屋市)
- 06月16日(月) 出版記念講演会(東京都品川区)
- 05月25日(日) 田中優氏講演会(京都府京都市)
- 06月07日(土) 田中優氏講演会(京都府京都市)
- 09月19日(金) 駒崎弘樹氏講演会(京都府京都市)
- 09月26日(金) ウィン・ウィン・ツァン チャリティーピアノコンサート
～カンボジアからの風にのせて～(京都府京都市)
- 12月05日(金) Child Soldier ～What were you doing at 13 years old? ～(京都府京都市)

●各種イベントへの参加

下記のイベントに参加し、本会の活動紹介や取り組んでいる課題の啓発などを行った。

- 05月17日(土)～18日(日) アフリカンフェスタ(主催:外務省)
- 08月02日(土)～03日(日) 国際協カステーション(主催:財団法人京都府国際センター)
- 09月06日(土)～07日(日) チャリティーバザー(主催:宗教法人松緑神道大和山)
- 12月20日(土)～21日(日) ワン・ワールド・フェスティバル(主催:同実行委員会)

●スタディツアー

下記のとおり、カンボジア及びウガンダでスタディツアーを企画した。参加者は合計 22 名。

- 08月31日(日)～09月06日(土) カンボジアスタディツアー 9名
- 10月09日(木)～15日(水) ウガンダスタディツアー 4名
- 03月07日(土)～15日(日) カンボジアスタディツアー 9名

●インターネット(ホームページ、メールマガジンなど)

公式ウェブサイト、公式ブログ、理事長、小川理事、江角カンボジア駐在代表、インターンに

よるブログを開設し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。また、メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、現在のところ、約700名の読者に、活動報告、イベント情報などを提供している。

●報道

理事長講演やイベントを開催する毎に、プレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。

2. 組織運営に関する報告

●会員現況(2009年3月末日現在)

正会員 141 名、個人賛助会員 422 名、ジュニア賛助会員 14 名、団体賛助会員 29 団体、ファンクラブ会員 161 名、合計 767 名 / ルネッサンス・サポーター(里親)119 名

●各種助成金申請

財団法人日本国際協力システム/NGO 支援事業 採用(支援金 80 万円)

独立行政法人国際協力機構/世界の人びとのための JICA 基金 採択(助成額 50 万円)

財団法人京都府国際センター/国際虹の輪募金 採択(助成額 26 万円)

●各種収集キャンペーン

本年度、書き損じはがき、使用済みインクカートリッジなど、海外事業費に充てるための収集キャンペーンを実施。

●協力団体との連携

今年度は、6 団体に加盟し、様々な協働事業、キャンペーンなどを実施したり、活動の展開の上で有益な情報を得ることができた。(地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、京都 NGO 協議会)

■体制

役員(理事、監事)

2008年度の役員は、次の通り。(2009年3月31日現在)

理事 鬼丸昌也、小川真吾、中井隆栄、岡田則子

監事 本田俊雄

事務局体制

京都事務局 無給専従職員1名、有給専従職員2名、有給非専従職員2名、インターン9名で運営を行った。

ウガンダ事務局 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ9名で運営を行った。

カンボジア事務局 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ8名で運営を行った。